

「お兄ちゃんの雑魚ちんぽは強ちんぽ」 作カジハラエム

第1章 お兄ちゃんと妹

(ドアノック)

「お兄ちゃん……いる？
ちょっとノートパソコン貸してほしーんだけど」

(ドアノック)

「いない？ (ノック連打) いないなら勝手に借りちゃう～」

(ドア開ける)

あたしに背を向けるように椅子に座って…なにかに夢中のお兄ちゃん。

「なーんだ…いるじゃん。いるなら返事しろし…。
ノーパソめっけ。
イヤフォンして勉強？ そりゃノックも気づかないわ。
お兄ちゃん～ちよっちソレ貸して？」

ノーパソをガン見してるお兄ちゃんに近づいて思わず固まる。

「エロ動画じゃん…?!
やーだー。
勉強じゃなくオナニーに夢中かよ…。
はあ…。
するのは勝手だけどさ～。
部屋にカギかけとけ～。

待った。
タイトル…見えた。
んん？
【僕のママが…エロすぎて困る】？
(吹く) ぶはっ…。
母親モノは予想外っ。
お兄ちゃんマザコンすぎ超ウケる…」

あたしは驚きつつ、れーせーにスマホを向けて写メる。
ズリネタを。(撮影音)
ちんぽシコってるのを。(撮影音)

続いて、チル友のLINEのグルチャに投稿。
おいしすぎて黙ってらんない。

「【悲報】お兄ちゃんオナニーなう。【ズリネタ母親モノ】」っと。

(投稿)

うわっ。
既読マッハ。

(通知×3)

通知も止まらん。

【ナオ：おお?! すげーのキターー】
【チカ：ええ…レモンのアニキなにしてんの】
【ミカ：マ?! すずちゃんすごい!】

レス早すぎ(笑)。
驚いて呆れて喜んで…盛り上がってくれてウレシイ♪
あたしはライブモードで追撃。
エンターテイメントは生っしょ。
シコシコお兄ちゃんの後ろから…覗くように撮る♥

おっ。
わあ。
ガン立ち生ちんぽ初めてみちやあ♥
ん…。
んン?
コレ…。
ネットでみたのとなんかちがくね…?

(通知)

【ナオ：レモンの兄貴マジ包莖で草】
【チカ：チカ知ってる これ皮オナってやつ笑】
【ミカ：すずちゃん…言いにくいけど…お兄さんのおチンチン…お子様…】

は?
包莖? 皮オナ? ちんちんお子様?
はあっ?
そっかー。

ふーん。
ふんふんふん。
知ってたしっ！

(通知)

【ナオ：包茎もっと映して！ アップで！】
【チカ：ねえレモン アニキが包茎ってどんな気持ち？ ねえどんな気持ち？】
【ミカ：わたしの弟は大人のおチンチンですのに…かわいそうすずちゃん…】

包茎包茎うるさいな…。
ミカの弟ちんぽ自慢はなんなん。

(通知)

【ミカ：弟の大人オチンチンです♥】

は??

(通知)

【ナオ：さらにすげえのキタっ】
【チカ：弟くんのチンコデカすぎ。笑】

マジ…ムキってグロすぎ…。

(通知)

【ミカ：わたしのお気に入りのオチンチンです♥】

お気になってなにつ…。

(通知)

【ナオ：まさかできてんの??】
【チカ：そーいえばミカって普段から弟クンの話ばっかしてね?】

うーん。
ガチ…できてるん??
更に追撃しようか迷う。

スマホから顔を上げると、
相変わらずオナ中なお兄ちゃん。
背後に妹がいるのにマジウケる。

ちらちら見えるちんぽ。
正直…。
ふつーにかわいい。

グロちんよりかわいい。
包茎、かわいいよ包茎。

(投稿)

【レモン：弟ちんぽグロすぎ。お兄ちゃんのちんぽのがかわいいから正義】

(通知)

【ナオ：正義は大草原】

【チカ：アニキのちんぽ必死に擁護するレモンかわゆ】

はあ？

擁護??

なにいつてんの。

ルックスは大差でお兄ちゃんちんぽの圧勝じゃん。

包茎かわいすぎっ！」

(強タップ／無言撮影終了)

(椅子蹴る)

椅子の背もたれをキック。

驚き跳ねるお兄ちゃん。

「人間ってそんな跳ねるんだ…ウケる。

妹がいるのに夢中でオナってたお兄ちゃんのがもっとウケるけど」

衝撃の事実に固まるお兄ちゃん。

一瞬でへにやるちんぽ。

「ノーパソ借りたかったんだけど～返事ないんだもん。

オナるならカギかけよ？」

慌てて股間を隠すお兄ちゃん。

「かわいいのに隠しちゃうんだ？

動画撮つといてよかった～」

顔を真っ赤にするお兄ちゃん。

「チル友のグルチャにも投稿しちゃった～」

今度は青くなるお兄ちゃん。

めっちゃ縮みあがるちんぽ。超かわいい。

(通知 SE)

「あ、LINE」

【ミカ：すずちゃんさつきはごめんね。グループじゃ話しにくいので直接送ります。包莖オチンチンだと早漏過ぎて悲しいことになると思うな。できるだけ早く治すのをすすめます。

あと弟とはなんともないです。少し仲がいいだけのどこにでもいる姉弟です！
わかってくれると思うけど念のため(^m^)]

「必死過ぎ。絶対デキてるわ…。

あ、こっちの話。

LINE見たチル友が包莖ちんぽは早漏すぎるから治したほうがいいって」

(通知 SE)

【ナオ：ライブもっと見たかったー。包莖がカワイくて正義とかリアルで吹いたwコーラ返せww

ガチな話、ミカの弟チンチンと比べたら包莖チンチン雑魚すぎっ】

「うっせえわ。

別のチル友が包莖は雑魚ちんぽだって」

(通知 SE)

【チカ：レモン怒ってる?? チカほんとのこと言っただけだけど…ごめんね。

包莖ちんぽって女子を満足させれないし、オナニー向きだと思う】

「包莖ちんぽは女の子を満足させれないから一生オナニーしてろって」

(椅子を蹴る音)

「お兄ちゃん、座って！」

勢いに押され座り直すお兄ちゃん。

「ゆ、か。床に正座っ！」

もろ出しのまま正座する従順なお兄ちゃん。

「包莖ちんぽがチル友全員からフルボッコな件」

ぽかーんと埴輪顔のお兄ちゃん。

「マジな話お兄ちゃんって早漏？」

目をそらしうつむくお兄ちゃん。

「さっきめっちゃシコシコしてたけど、射精してないよね？」

声を詰まらせるも、ボソボソ答え始めるお兄ちゃん。

「…すぐイカないように手加減してた？」

そっか～～。

包茎が早漏なの…ガチなんだ。

カワイイのに……」

顔を向けると、カワイイちんぽが勃起してるのに気づく。

「は…？」

思わず二度見。

「なんで勃起してんの？」

苦笑いのお兄ちゃんに膝をつきあわせ、ちんぽガン見。

「近くで見ると…。

がんばって背伸びしてるみたい♥」

皮をかむった先っちょを軽く指で弾く。(SE)

「カワイイのに敏感」

先端をつん。(SE)

「カワイイのに雑魚」

先端をつんつん。(SE)

「ピクピクするのかわいすぎん？ (SE)

お兄ちゃん、嬉しそー♥ (SE)

目もエローい♥ (SE)

包茎♥ (SE)

早漏♥ (SE)

マザコン♥ (SE)

ドM～～♥ (SE)

お兄ちゃん…属性多すぎ～～ (笑)。

よーし。

ママ、もっとデコピンしちゃうぞー！

デコじゃないからちんピン？

どっちでもいっか。

いくぞう。

えいつ。(SE)

ん……？ 今、お兄ちゃん声出たっ？

絶対出たっあたし聞いたし。(SE)

ほらっ。やっぱ出た。(SE× 3)

ウケる。(SE)

ちんピンするたび、声出ちゃうお兄ちゃん。(SE× 5)

え？

先っちょからなんか汁っ？ 出てきた…っ。

おしっこ？ 漏らしちゃった??

は？

ガマン…汁？

あ～～～気持ちいいと出るんだっけ??

うわ。

ダラダラだよダラダラ。

めっちゃ出てくる。

ちんぽピクピク先っちょダラダラ。

ヤバすぎっ。

ずっと見れる♪」

テンアゲすぎて勝手に手が伸びる。

(掴む)

「あ？

あれっ？

ちんぽニギっちゃった！」

初めてのちんぽが包莖でしかもお兄ちゃんのかビビる。

(握る)

「グニッ？」

わっ。

硬いのに…やわっ!?

ヤバ。ちんぽの感触…ヤッバ」

思わずニギニギしまくる新感触。

(ニギニギ)

「熱う。

お兄ちゃん熱いよっ。

なにこれ。

ちんぽってこんななの？

包茎だから??

ふっしぎ〜〜!!」

夢中でニギニギしたくなる新感触。

(ニギニギ)

「ん？」

お兄ちゃん大人しくね？

ねえ…？ (ニギ)

ねえっ??? (ニギニギ)」

ちんぽとお兄ちゃんをちらちら見比べながら握りまくる。

(ニギニギ)

「大人しいってか、

ハアハアやば！

めっちゃ感じてるじゃん！

お兄ちゃん〜。

妹にちんぽ握られて感じてるの〜〜 (ニギ)」

一旦手を離し、

カリ首のあたりを人差し指と親指で軽くつまむ。

全然力を入れてないのに、ちんぽが跳ねる。

「うわっ。

ガチだっ (笑)」

そのままつまんだ指を下に動かそうとすると、

痛つと声を上げるお兄ちゃん。

「え？ 痛い？ なんで??

…真性に近い仮性包茎だから剥こうとすると痛い？

センシティブ！」

さらに包茎のトリセツをごによごによ続けるお兄ちゃん。

「ごめん、もういい。

つまりさー。

ゆっくり剥けば…よくない？」

めっちゃ不安そーな顔のお兄ちゃん。

「ウケる。

はじめて耳かきしてあげた時とおんなじ顔してる。

今もたまにやってあげてるよねえ、

み、み、か、き」

はつとするお兄ちゃん。

「ちんぽ剥くのって耳かきよりムズイ？

手先が器用な妹を信じよーぜ」

(チンピン)

ちんぽを指で弾きながらドヤる。

「それとも、思いっきりブン剥かれない？

お兄ちゃんドMだし～～♪」

一気に顔が真っ青のお兄ちゃん。

「ちょービビってる (笑)。

マジですと思った??

や～だ～あ。

あたしがそんなヒドイことするわけが……。

えいつ！！」

(ぶん)

「うっそぴよ～～ん (笑)。

フェイントだよお兄ちゃん。

緊張しすぎ。

リラックスしようぜリラックス」

かすかに頷くお兄ちゃん。

「わかったならヨシ。
今度こそいくよー♥」

人差し指と親指で優しくつまむ。

「一気に剥くのがNGなら、
ゆっくり…。
少しだけ下げて…、(SE)
戻す。(SE)

ほら、痛くない。

ゆっくり…。
少し下げて…、(SE)
戻す。(SE)

ほら、ダイジョウブ。

ゆっくり…少し下げて…。(SE) 戻す。(SE) 痛くない。
ゆっくり…少し下げて…。(SE) 戻す。(SE) いたくない。
ゆっくり…少し下げて…。(SE) 戻す。(SE) イタクナイ。

どんどん慣れるよー。
剥かれるのにちんぽ慣れるー。

うお。
びゅるっとガマン汁。
へいき。あふれたって慌てない。

超お優しく続ける。
指は添えるくらい。

繰り返して、(SE)
繰り返して、(SE)
繰り返すっ。(SE)

どお？
痛くないのは、慣れた証拠。

見てっ。

なにげに半分くらい剥けた♥

ピンクの龟头ちゃんがマン汁でテラテラのピカピカすぎ♥

お兄ちゃんの顔もさー。

いつの間にか、めっちゃヘン顔（笑）。

もしかして、

気持ちいいとか??

ウケる。

剥いてるだけで気持ちいいとかコスパやばっ（笑）。

(SE)

でも…。

確かにあたしの指の動き…。(SE)

控えめに言ってエロい。(SE)

いやいや控えなくてもエロいって。(SE)

あたしが部屋に来なかったらいつもどーりにシコってたのにねー。

オナニー邪魔されてよかったねー。

(SE)

妹にちんぽ上下にされて嬉し？(SE)

ママじゃないけど嬉し??(SE)

あたしのおかげでいつもより気持ちよくなれてよかったでちゅね～（笑）。

(SE)

お。

指先ぶるった。

お兄ちゃんっ。

ちんぽビクってる。

(SE)

あ～～っ。

ひょっとして…。

射精近いっ？ とかっ？

(SE)

んん？

金玉袋…ヒュンってなってキュ〜〜って縮んでく…！

(SE)

え？
ストップ？ なんで？
きゃっ!？」

(1st 射精)

まん丸ピンクのお口からナニかがブツパ！
反射的に手でブロックしたあたしエライ。

「ちょっ!？」
手のひらつめちゃ痛つあつっ！
ドクドク止まらんっ勢いエグっ。
あつ。
あつ…。
あ……。
あ…。
やっと終わった……」

ブロックされた液体はお兄ちゃんの股間にべっちょり。
白くてドロドロしたのがぐっちょぐっちょ。

「うわあ…これが精液……？
ガチで白〜い。
白濁液マジ白濁液。
しかも、量！ こんな出るん？ 出すぎじゃね??」

満足そーに固まったお兄ちゃんは、真っ赤になってティッシュを箱ごとトス。

(キャッチ)

「ありがと…っ」

(ティッシュ出す／拭う)

「うわあ…ドロドロネバネバすぎ。

(拭う)

なかなか取れんし。

(嗅ぐ)

匂いもきつつ！」

「…いきなり出してゴメン？
マジソレっ急すぎびびった！
包茎が早漏ってちょーわからされた」

(丸めて捨てる)

「……違う？ フツーなら軽い刺激でイカない？ 一週間のオナ禁のせい??
後出し言い訳キター。
なんで一週間も溜めんのってツッコんだほうがいい？
男子って毎日するんじゃないの？
ドMってバカなの？」

罵倒気味ツッコミでもお兄ちゃんはヘーキな顔。

「…一日二回はマスト？ たまにいっぱい出したくなるから今週は溜めてた？
(呆れつつ) はあ…。
お兄ちゃんが特別バカなだけだった」

罵倒されてニコニコのお兄ちゃん。

「えーつと…。
ついでに聞くけど…。
ちんぽ、まだ立ってるのなんで？
一回出したらへにやるんじゃ？」

一転ドヤ顔のお兄ちゃん。

「…フツーに何回も出せる？ 一回くらい全然ヨユー？
は？ マジ？ そんなちんぽあるの？
信じらんない。
ちょっとLINEで聞くわ。

(投稿)

【レモン：お兄ちゃんの包茎ちんぽのことで質問！
射精しても勃起しっぱ これってフツー？
精液もすっごい出たし…何回でもイケるってドヤってる】」

(通知)

【ナオ：は？ ナニしてん??】

【チカ：レモン?? ちょまつ?!】

【ミカ：弟の大人オチンチンは一回出したらおやすみしてますよ?…お兄さんの包莖オチンチンは病気かも…】

(撮影音／投稿)

「【レモン：射精後のちんぽ わかりづらいかも】」

(通知)

【ナオ：ギンギンなのはわかる～～】

【チカ：アニキさんの包莖ちんぽ…なろうかも 最弱なのに最強ってやつ】

【ミカ：絶対病気です!】

「ミカはスルー…。

うーん。ヤバいちんぽなの間違いなさそ。

なろうちんぽとか言われて…ウケる」

ますますドヤ顔のお兄ちゃん。

「顔うざっ。

(投稿)

【レモン：包莖にもイロイロある】」

(通知)

【ナオ：マジかーすげえ】

【チカ：見直したかも】

【ミカ：そんなワケないです…!】

LINEしてる間もちんぽはビンビン。

「ふんぞり返っちゃって…ナマイキっ」

ちんぽの根元をつまんで左右に振ってみる。

(つまむ)

「ちんぽ～ゆらゆら～チンアナゴ～♪

ちよつとぬるってる～チンアナゴ～♪

ワンチャン剥けそ～チンアナゴ～♪」

ムキムキチャレンジ再開。

(SE)

「ンン。さっきと同じところまではヨユー。
そっから…きつつ……剥けんくなった」

あうっとヘンな声を上げるお兄ちゃん。
そっとなでて確認してみる。(SE)

「ん〜…でっばってる。
ここがキツイんだ…。(SE)
ここがねえ…(SE)」

何度もさすさす。
ますますヘンな声をあげるお兄ちゃん。(SE)

「あれ？
めちゃ歯あ食いしばってる。
え、痛い??」

聞いた瞬間、ガマン汁がドッバァ。
ドクドク溢れて指を濡らす。

「…手コキじゃ味わえない優しい動きが逆に新鮮？ さっきの暴発もそのせい？
知らんがな。
溜めすぎちんぽバカすぎ」

強めに皮を上下に。(SE)
なんとかカリ首が一番広がってるところまで剥ける。

「いくよ…。
ちんぽの皮〜〜カリ首通過しま〜〜す！」

皮の先端をミシミシさせながら、無理やりグイグイ。

(SE)

亀頭を締め付けながら引っ張られる皮。

「なんかいけそ…！」

(SE)

手応えを感じた瞬間、すごい勢いでタップするお兄ちゃん。

(バンバン)

「なになになっ?!」

慌ててストップ。

「…イキそうだった？

痛いんじゃないんかーい！」

思わず離れた手でちんぽにツッコミ。(ぺし)

「…痛いけどイク？

ああそう……。

わかったわかった。

正直に一さんにはゴホウビあげますよ」

少し強めにカリ首の下んところをつまむ。

お兄ちゃんと目を合わせてニヤリ。

「ちまちま剥くの飽きたんご」

何をされるのか察して固まるお兄ちゃん。

「泣きそーなのに…嬉しそうな顔。

ご褒美わかつちやった？

さすが～～」

あたしは半分以上剥けてた皮をにゆるんと元の包茎ポジションに戻す。

「せっかく剥いたのにね～。

でも、このほうがイキオイつくから♥」

お兄ちゃんがナニか言おうとするより早く指に力を込める。

「ご褒美はあ…痛い痛いズ、ル、ム、ケ♥」

カワイイ口調とは裏腹。

全力のマジのガチで皮をひん剥くっ。

今までの苦勞をぶっ飛ばす強制完全丸出し。

(SE)

「やったあ！」

初めて聞くお兄ちゃんの悲鳴。
嬉しさ爆発。ちんぽも爆発っ。

(2nd 射精)

「またあっ?! 手のひらいたいあついいたいっ!」

ギリギリ手のひらブロック。二回目もセーフ。
何回出してもかわんない量と勢いにびびる。

「はあっ…さっきよりヤバくて…イミフ」

目を丸くして精液まみれの右手とちんぽを見つめる。

「は?
まだ勃起してる…!?
まって、ドMにはご褒美すぎた??」

軽くフリーズしつつ、勝手に納得する。

「あ。
写メろ。
LINEで見せる」

(写メ)

「てかさあ…。
ますます立ってない?
かっこよく写りたいワケ?
亀頭はピンクでかわいいのに、
竿は精液でベツベツでブサイよ」

(写メ)

唇を尖らせながら、亀頭を指でちょん。

(SE)

「熱っ。
さっきよりも熱くね? なんで?? 剥けたから??」

謎解明とばかりに、亀頭を撫でてみる。

(撫でる)

「おほ～。

熱々すべすべ～～。(撫でる)

初めての感触～～。(撫でる)

新触感だよお兄ちゃん。(撫でる)

ずっと撫でれる～～ (笑)」

(撫でる)

ノリノリ撫でまくり。

(撫でる)

「ん？

今、ちんぽピクってした」

確かめるようにゆっくり亀頭を撫でる。

(ゆっくり撫でる)

「お？

やっぱピクる。

ちんぽピクピク～反応よすぎ～～。

新しいおもちゃかな？ (笑)」

ウキウキで親指を立てたグッドの握りでちんぽの竿を掴む。

(掴む)

「親指で裏筋アタック♥

タップ♥

フリック♥

スワイプ♥

あはっ。

スワイプ一番弱っ♥

ちんぽピクピク。血管ビキビキっ♥

このままよゆーでイキそ～～ (笑)。

…イカない？

ウケる。

二回暴発してるのに謎の自信ヤバい。

お兄ちゃんってさあ、そういうところあるよね」

あたしはあっさり手を離し、

ビデオモードにしたスマホを机の上に立てかける。
ちゃんと映るのを確認し、撮影ボタンをタップ。(SE)
自分の顔の前で両手をマイクを握るみたいな感じに組む。

「チキチキ早漏チャレンジはじまるよー♥」

ナニかがすっぽり入りそうな隙間をお兄ちゃんに見せつける。
お兄ちゃんがつばを飲み込む音が聞こえる。

「スワイプでもよかったけど、
お手々おまんこのがいいでしょ？
一分ズコズコしてイカなかったら早漏じゃなくなったってLINEしてあげる。
もしイッちゃったらやっぱり早漏だったってLINEするけど」

鼻息荒くお手々おまんこをガン見してくるお兄ちゃん。

「お手々をこーして、(ぺっぺっ)
モミモミすれば…、(くちゅくちゅ)
ぬるぬるお手々おまんこの…出、来、上、が、り♥」

目を血走らせ、勢いよく立ち上がるお兄ちゃん。
遅れてちんぽがぶるんっ跳ね上がる。

(ぴしゃ)

「うっわ。亀頭パンパン～～今にも爆発しそ～～。
そんなに使いたいの…コ、レ♥」

正面に構えたお手々おまんこをお兄ちゃんに見せつけるようにゆっくり左右に動かす。

「ほらほら～♥ おいでおいで♥」

エロい視線がフラフラ追いかけてくる。

「ぬるぬるのお手々おまんこに～ちんぽじゅぼじゅぼしたら～すっごくきもちいいよお♥」

はち切れそうな亀頭の先ちょがヨダレを垂らしながら手まんこにスリスリ。

「お兄ちゃんの初めて…妹のお手々おまんこが奪っちゃう♥
童貞は卒業できないけど(笑)」

スリスリしてた亀頭が押し当てる動きに変わる。

「目の前にこ〜〜んな気持ちよさそうな穴があるのにど〜〜したのお??
今なら〜超お気持ちいいお手々おまんこに〜〜思（溜め）つきり…、
な・か・だ・し。
できるのに♥」

(挿入)

「ああっ！
バリカタちんぽどちゅつとキタっ♥
一気に根元までキタっ♥」

お手々おまんこをどちゅつと貫通。
ガマン汁を飛ばして亀頭がにゆるつとこんにちは。

「ん。やっぱ手にはおさまらないね。
亀頭がはみ出ちゃった（笑）。
ちょっとカワイイかも。

ん？
ねえ、なんで動かないの？
早く動きなよ。
ほらほら。
待望のお手々おまんこだぞ〜〜♥」

小首をかしげながら、ぶりっ子煽り。

「ま〜さ〜か〜。
イキそ〜だから動かせないとかないよね〜？
挿れたつきり動かないで一分とか、ただの逃げ。
二回も出したのに雑魚。
雑魚オブ雑魚。
本物のおまんこじゃないのにしょ〜もな」

あたしの煽りをよそに必死に息を整えるお兄ちゃん。

「お」

ようやく動く。
突き挿れてた腰が引き戻される。

(SE)

「遅っ」

予想以上のへっぴり腰。

「挿れる時は一気だったのに…暴発ビビりすぎ」

(挿れる)

「お…っそ！

手の中…あつつくてかったい肉の棒が擦れてくの…めっちゃわかる。
ピクピクビクビクっ、カリ首引っかかっている♥

(抜く)

…最高すぎて死ぬ??

一分ズコまくってから言ってよ。

お手々おまんこ気持ちいいよーズコズコかもん♥」

煽りまくっても、やっぱりマイペース。

(往復)

汗だくでゆっくりズコる。

(往復) 一ズコ。

(往復) 二ズコ。

(往復) 三ズコ。

「もっと速くう。

…ズコズコしまくりたいけど一秒でも長く楽しみたい??

(往復)

はー…。

お手々おまんこでコレだもんなー。

本物まんこだったら…一生動かなそー (笑)。

いちお一言とくけど、しないよ?

ないない。するわけないじゃん!

はじめてが、お兄ちゃんとか絶対イヤ……!」

うっかり処女暴露。

「あ……///」

ごまかすように両手をぎゅっ。

(ぎゅ)

急に全力でちんぽを握られ、奇声をあげるお兄ちゃん。
真正面でちんぽ大暴発。

(3rd 射精)

「(浴びる) うっぷぷっ?!」

顔面精液シャワー。

「あっっあっう!？」

熱いのがドピュドピュ。すごい勢いでドブドブッ。
息ができず、必死に顔をそらす。

「はあっはあっ…はあっ……。
びっくりしたびっくりした…っ。
熱くて痛くて息できなくて死ぬかと思った…っ!!」

顔に浴びた精液を拭こうとしてちんぽを握りしめてたことに気づく。

「あ…～～。今の…あたしのせい？」

鼻息荒く頷くお兄ちゃん。

「はあ。

(ティッシュ) (拭う) (丸める) (捨てる)

チャレンジやり直すかー」

腰をクイクイ。
勃起しっぱなしのちんぽを返事代わりに見せつけてくるお兄ちゃん。

「謎元気スギィ!
わかったわかった…。
今度はあたしが攻める。
時間は……」

指を三本立てるお兄ちゃん。

「三分ね。りよ。

チキチキ早漏チャレンジ…りすたーと♥」

(挿入)

お手々まんこをちんぽにズブリ。

「最初からガチ。

(ずこずこ：始)

お手々まんこめちゃシコ。

根元から先っちょまで激しくズコる」

付度なしの鬼ハメに棒立ちんこ。

情けない声で鳴き始めるお兄ちゃん。

「いー声 (笑)。

このままいくよーーイケイケ鳴け鳴けっ♥」

お手々まんこのエロい音とお兄ちゃんの鳴き声がハモってカオス。

「もっと鳴けっ♥

鳴けっ♥ 鳴けっ♥

鳴いてイケっ♥

イケっ♥ イケっ♥

ほらイケっ♥

イケっ♥ イケっ♥」

お手々まんこの中のちんぽが、ひときわビクビクっ。

顔を避けてラストスパート。

「びゅくびゅくイケっ!! イケイケっ!!」

(ずこずこ：終) (4th 射精)

「出たっ!! お兄ちゃんイッたーあ!!」

あたしの顔の横をかすめてドッパア。

机にぶっかけ大射精。

「えっぐ…。

四発目だよな？ 精液ドバドバすぎん??」

だんまり無言のお兄ちゃん。

口元ゆるゆる。目はウツトリ。

「めっちゃ余韻ひたってる……」

軽く引きつつ、お手々まんこをほどく。

手を拭ってから、録画をストップ。

(ティッシュ/清拭/捨てる/タップ)

「最高の動画撮れた。

んん？ LINEの鬼通知ヤバっ！

三人ともお兄ちゃんのちんぽ気になりすぎ (笑)。

とりま撮ってた動画貼っちゃお。

(送信)

【必見！ 早漏チャレンジ！ 結果はこちら →】

秒で既読になる。

「動画見たら最強の雑魚ちんぽだってバレちゃうな～。

雑魚キャラが実は強キャラとか、なろうすぎ (笑)。

ちょっとお兄ちゃん聞ってる？

なろうちんぽのお兄ちゃん～～。

いつまでもイッてないで戻ってこーい」

半立ちのちんぽぺしぺし。(ぺしぺし)

叩きまくってお兄ちゃんを現実にカムバックさせる。(ぺしぺしぺしっ)

(通知音)

【ナオ：兄貴の包莖ちんぽ雑魚すぎだけど色々ヤバすぎ！ 今度貸して？】

【チカ：えーっ包莖ちんぽって実はヤバかったん？ レモンのアニキだけ?? 何回だしてもギンギンってスゴすぎ…今度見せて？】

【ミカ：病気確定… こんなに何回も出すなんて睾丸バグってる 弟のオチンチンが一番なんだもん！ 今度比べさせて？】

「手のひらクルックル (笑)。

選ばれたのは綾鷹…じゃなくお兄ちゃんのなろうちんぽでしたー。

聞いてよお兄ちゃん。

チル友の三人がさ、お兄ちゃんのちんぽ試してみたいって！
いいよね？ どーせお兄ちゃん暇でしょ？ いっぱい出せるなんて最高じゃん♥」

急展開に目をパチクのお兄ちゃん。「お、おう」としどろもどろに肯定。

(送信)

「【レモン：予約制だよ】」

(通知音)

【ナオ：月末空いてるよろしく】

【チカ：週末よろ】

【ミカ：弟とお願いします！】

「週末はチカ。月末はナオ。翌月…ミカでいいや。

場所と時間は……前日でいいよね。

んじゃ送信つと」

(送信)

「ってことでよろしく！

最強なうちんぽで目指せハーレム！」

あたしは立ち上がると伸びっ。

「お風呂ってくるっ。

いろいろベツベタすぎてもおムリっ。

上がったら、ノーパソ貸してねっ」

(ドア)